筑波大学共通科目「情報」専門部会における、「データサイエンス・リテラシープログラム」の自己点検・評価の結果について

「情報」専門部会
令和３年６月　日

「データサイエンス・リテラシープログラム」の自己点検・評価を行う体制である、「情報」専門部会において、以下のとおり自己点検・評価の作業を行ったので、報告する。

【自己点検・評価作業を行った「情報」専門部会の開催日時】
日　時　　令和３年６月１７日（木）　１３：００　～　１４：３０
場　所　　MS Teams によるオンライン会議

【評価者（参加者）】
令和３年度の筑波大学共通科目「情報」専門部会の構成員

【点検・評価のための確認事項】

・共通科目「情報」の基本方針

別添資料１に基づき、共通科目「情報」の基本方針について確認が行われ、問題がないことが確認された。

・令和４年度シラバスの基本方針及び編成

別添資料２に基づき、令和４年度シラバスの基本方針及び編成について確認が行われ、問題がないことが確認された。

・令和４年度以降の「情報リテラシー（講義）」の恒常的なオンライン化について

資料（検討中の情報が含まれるため公表資料とはしない。）に基づき、令和４年度以降の「情報リテラシー（講義）」の恒常的なオンライン化について検討中であることが報告され、意見交換の結果、オンライン化した際のデメリット等も引続き確認のうえ、恒常的なオンライン化に向けて検討していくことが確認された。

・令和２年度授業評価アンケートの実施結果について

資料（機密情報が含まれるため公表資料とはしない。）に基づき、令和２年度授業評価アンケートの実施結果について確認が行われ、問題がないことが確認された。

・令和３年度データサイエンスの標準教材

別添資料３に基づき、令和３年度データサイエンスの標準教材について確認が行われ、問題がないことが確認された。

・データサイエンスの導入動画のビデオ講師について

資料（機密情報が含まれるため公表資料とはしない。）に基づき、データサイエンスの導入動画のビデオ講師について確認が行われ、問題がないことが確認された。

【自己点検・評価における各視点】

・プログラムの履修・修得状況

本申請の教育プログラムが全学必修科目で構成されており、卒業までに全学群生が履修・修得するというカリキュラムになっているといえる。

・学修成果

懇談会や授業評価アンケートの実施によって学生からの意見を集約し、常時担当教員間において分析を行い、学修成果の把握を図っている。また、成績評価の方法などについて、随時、教員間で十分に意見交換がなされている。

・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業評価アンケートを継続的に実施し、学生の授業内容の理解度を把握する取り組みを続けている。一方、課題の負担が大きいという意見も見られることから、学生の習得状況と課題のバランスについては今後改善していく課題であると思われる。

・学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

全学必修科目であるため、推奨度に関わらず履修する必要があるが、授業評価アンケートから見ると、概ね科目全般に関する学生からの満足度は高いものとなっている。

・全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

「数理・データサイエンス」科目は全学必修科目であるため、履修者数及び履修率向上に向けた取組は達成しているといえる。

・教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

令和 4 年度に最初の卒業生を輩出することになるが、進路調査・活躍状況については本学就職課において進路統計を実施しており、企業等の評価については、教育推進部において実施している企業アンケートにおいて、「貴社で採用された本学卒業生が貴社に求める人材像との比較において、データ・情報リテラシーの能力等はどのように感じるか」という項目を設けて実施していることから、本申請プログラム以前の卒業生との比較も含めて検証する準備は整備されているといえる。

・産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

FD イベントとして、懇談会を年二回、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムワークショップ（一般公開）を年一回本学にて開催し、学生アンケート・講師アンケート・教育効果測定の結果などを共有し担当講師同士の授業ノウハウの共有と議論を実行している。

※懇談会：民間企業でデータ解析業務に携わる複数の授業担当講師から、教育内容や授業の進め方などについて様々な意見を収集

・数理・データサイエンス・ＡＩを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

学生の「数理・データサイエンス」技術の重要性理解と学習動機向上を目的とし、データ活用を専門の様々な分野の本学教員によるビデオ講義を導入している。

・内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

様々な背景を持つ学生に対応可能な標準教材（難易度が三段階のスライド・講義動画・小テスト・演習課題）を作成し、担当講師が各学群やクラスごとの学生の特性に合わせて標準教材を改良している。